

基本的CSR活動報告

社会から信頼される 企業であるために

法令や社会倫理を守る「コンプライアンス」、企業の経営基盤に関わる「コーポレートガバナンス」、
企業の説明責任を果たす「情報開示」など、企業が事業を行う上で取り組むべき
基本的な活動を「基本的CSR」とし、グループ全体で実践しています。

[2010年の基本的CSR活動概要]

テーマ	2010年の 取り組み計画	2010年の主な活動実績	掲載 ページ	自己 評価	次年の主な活動計画
コンプライ アンス	グループ理念、CSR憲章、 行動綱領の理解浸透の 促進	<ul style="list-style-type: none"> 行動綱領及びCSR憲章の理解を深めるためのe-ラーニングを 実施。履修率100%達成 グループCSR表彰制度を実施 	p11 と p12	★★	<ul style="list-style-type: none"> CSRハンドブックの改訂 グループCSR表彰の継続実施
	グループ全体でのリスク マネジメント体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 国内のグループ会社及び海外現地法人に対する リスクマネジメント体制を構築し、グループCSR委員会にて 進捗管理を実施 	p10		<ul style="list-style-type: none"> 全社リスクマネジメント体制の 進捗管理の継続実施によるリスク 低減化
	CSR教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> グループ各社の経営者への「内部統制と取締役の責任について」の 講演会の実施(6月25日) 新入社員へのCSR導入研修の実施(各社CSR事務局) 新任コンプライアンス職場推進担当者及びCSR事務局員などへの コンプライアンス学習と理解度テストの実施 管理職昇格者へのコンプライアンス学習と理解度テストの実施 ポニー、オルビスの海外現地法人社長などへの「海外現地法人 コンプライアンス強化に関する研修会」の実施(3月9日) 	p10 と p12		<ul style="list-style-type: none"> 各種階層別研修、講演会、 e-ラーニングなどを通じたCSR・ コンプライアンス教育の継続実施
	モニタリングの実施	<ul style="list-style-type: none"> 「働きやすい職場づくり～パワーハラスメントの防止～」のCSR・コン プライアンス講演会の実施(9月13日、29日) CSR・コンプライアンスe-ラーニングの実施(8月18日～9月30日) 	p22		<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス従業員意識 調査及び従業員満足度調査の 継続実施 ヘルプライン制度の周知徹底 リスクマネジメント体制の充実
情報 セキュリティ	情報セキュリティ体制の 強化	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の棚卸による現状把握とリスク評価の実施(2回/年) 企業情報の管理徹底 	p12	★★★	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の棚卸の継続実施 クリアデスク運動等による、職場に おける情報管理の徹底

【自己評価について】 ★★★:成果がありました ★★:あと一歩でした ★:もう少し努力が必要でした

●内部統制に関する基本的方針をグループ全体で徹底しています

ポーラ・オルビスグループでは、全てのステークホルダーからの信頼を得て、企業価値の向上を実現するため、「コンプライアンスの確保」、「財務報告の信頼性の確保」、「業務の有効性・効率性の確保」、「資産の保全」に努めるとともに、事業活動における様々なリスクを把握し適切に対応するリスクマネジメント体制を構築・整備し、運用しています。グループ各社で上記の実現を図るべく、会社法の考え方に則り「内部統制システムに関する基本方針」を

定め、全ての従業員が十分に理解できるよう社内イントラネットの活用などを通じて啓蒙、啓発しています。

2010年は、グループ各社の経営者を対象とした、新日本有限責任監査法人 岩淵 信夫氏による「内部統制と取締役の責任について」の講演会を6月25日に実施し、その中でコーポレートガバナンス・内部統制の重要性を認識するとともに、過去に発生した事例を通して、取締役としての責務について理解を深めました。

●リスクマネジメントの評価、リスク低減化の仕組みを強化しています

ポーラ・オルビスグループでは、2009年1月より全社リスクマネジメント体制を構築し、グループ各社にてリスクの洗い出し、リスク評価を行い、その結果に基づく「リスクマップ」を作成しました。そこから、特にリスク値の高いテーマについては、優先順位をつけて「リスク低減化計画」を策定し、四半期ごとにCSR事務局長会議にて進捗・管理を行い、PDCAサイクルを回す体制を構築しました。

さらに2010年は、グループ全体で「不正リスクの洗い出し」に取り組み、各社の職場における不正リスク評価を実施して、リスクの高い項目について改善計画を作成し、不正

防止の徹底を図りました。これによって全社リスクマネジメントは強化されつつあるものの、現場のリスクが十分に反映されているとはいえ、今後の課題と認識しています。

また、「内部監査室」、「監査役会」との情報共有化、連携強化を図り、改善が必要な項目については、グループ全体で共有化し、必要に応じてリスク低減化計画に反映させ、改善に努めました。2010年は、監査役会からの提言に基づき「品質保証部会」を設置し、品質保証体制のさらなる充実を図っています。

●反社会的勢力への対応によって社会の信頼に応えています

ポーラ・オルビスグループでは、反社会的勢力に対して行動綱領にて「断固として対決」姿勢を宣言し、「特殊暴力防止対策連合会」、「特殊暴力防止対策協議会」へ加盟するなど、地元警察、その他の外部機関との連携、外部情報の

収集、反社会的勢力との取引を防止するための事前防止策等を実施しています。また、反社会的勢力の排除を図り、そのための対応マニュアルを整備し、徹底に努めています。

Voice 自ら変革するポーラ・オルビスグループへ

これからは、いっそう外の世界に
きちんと立ち向い
変わるべきときに
変わっていくことが
必要だと考えます

(株)ポーラ・オルビスホールディングス
社外監査役
弁護士 佐藤 明夫さん



ポーラ・オルビスホールディングスの社外監査役に就任してから3年が経過しましたが、その間ずいぶんグループ内のガバナンス体制は変わってきたと思います。もちろん、上場するためということもありますが、それだけでなく、

グループが今後さらに繁栄するために自ら変わっていかねばならないという意識が、少しずつ、経営層からグループ内に浸透してきているように思えます。私は、取締役会などで、よく「ポーラ・オルビスグループは、ビジネスの完成度が高く、しかも、製造から販売までグループ内で完結しているため、外の世界を知らないで過ごしてきたところがある。しかし、それではますます厳しくなる世界には立ち向かっていけない。変わるべきときに変わっていかないと、今の我が国のようになってしまう。」と申し上げています。上場という大きなイベントを機に、世界に通用するグループにふさわしいガバナンス体制を確立し、「世界中の人々に笑顔と感動をお届けしたい」というグループの究極の理念を実現すべく、さらに努力していただきたいと思っています。

誠実な企業であること

コンプライアンス

グループ全体で、CSR及びコンプライアンスの啓蒙啓発・教育に、さらに力を注いでいます

ポーラ・オルビスグループのコンプライアンス経営の基本方針

1. 取締役及び執行役員などの経営者は、行動綱領の精神の実現が自らの役割であることを自覚し、率先垂範するとともに、社内外の声を常に把握し、実効性のある社内体制を整備し、社内に徹底の上、取引先などに周知します。法令違反その他行動綱領に反するような事態が発生した場合は、経営トップ自ら問題解決にあたり、原因究明の上、早急に是正処置を講じ、再発防止を図り、必要に応じて自らを含めて厳正な処分を行います。
2. 全役員、従業員は『ポーラ・オルビスグループ行動綱領』を遵守します。
3. コンプライアンスを含むCSR全般についてのグループ全体の推進役として、担当役員(責任者)を任命し、担当部署としてCSR推進室を設置し、教育・研修プログラムの実施、ヘルプライン(相談窓口)の運営などを行います。
4. アンケートやヒアリングなどを通じての社内モニタリング調査、社内外の各種監査を実施し、改善策を策定し、スパイラルアップを図ります。必要に応じて人事考課への組み込みも実施します。
5. コンプライアンスを基本としながらも、基本的CSR、事業的CSR、選択的CSR活動領域を、グループ全体、あるいは、ビジネスパートナーや取引先企業と一体的に取り組みます。

●コンプライアンスを広義の意味でとらえ、PDCAサイクルを通じてさらなる発展をめざします

ポーラ・オルビスグループでは、「コンプライアンス経営の基本方針」に沿って、最大の課題であるコンプライアンスを法令遵守にとどまることなく、その背景にある企業理念や行動綱領までを含めたより広義の観点でとらえ、実践しています。

さらに、CSR活動計画の策定(PPLAN)、その実践(DO)、モニタリング評価による現状把握(CHECK)、問題点や課題の抽出、改善の実施(ACTION)という、コンプライアンスのPDCAサイクルを回すことで、コンプライアンス課題を明らかにし、日々の改善につなげています。



■グループ全役員、従業員へのCSR教育を実施

ポーラ・オルビスグループでは、従業員へのコンプライアンス教育として、新入社員をはじめとする全従業員を対象にコンプライアンス全般についての理解・浸透を図っています。2010年は、グループに所属する全役員、従業員を対象にコンプライアンスや働きやすい職場づくりなどをテーマにした「e-ラーニング」やパワーハラスメント防止のための講演会を実施しました。

さらに、9月の1ヵ月間を「CSRを考える月間」に設定し、各社ごとのコンプライアンスを含むCSR課題を取り上げ、改善活動を実施しました。

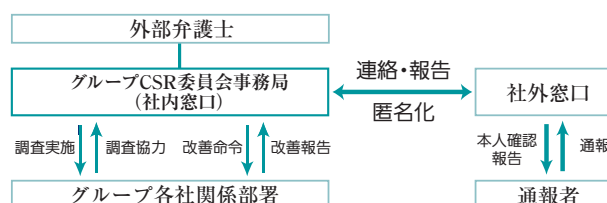
■コンプライアンス従業員意識調査をもとに課題改善

ポーラ・オルビスグループでは、様々なコンプライアンスの取り組み状況や浸透度などを客観的に評価するため、グループ全体において「コンプライアンス従業員意識調査」を実施し、コンプライアンス上の課題を明らかにしています。また同時に実施した「従業員満足度調査」と合わせて、コンプライアンス課題と従業員の意識・行動との関わりについて考察し、それらをリスク低減化計画に課題として盛り込んでいます。

■ヘルプラインを通じてコンプライアンス課題の見逃しを防止

ポーラ・オルビスグループでは、職場におけるコンプライアンス課題を見逃さず改善するために、グループ全体で「ヘルプライン」を運用しています。グループ全役員、従業員を対象に、通報や相談ができる体制を構築し、社内のリスク情報を直接把握し、リスクの低減や違反防止につなげています。ヘルプラインの窓口担当者及びその関係者は、公益通報者保護法に基づいて、通報・相談者のプライバシー保護に万全の配慮をしています。

[ヘルプラインの仕組み]



●情報資産管理の基本方針を定め、お客さまの信頼に応えています

訪問販売、通信販売等を中心とするポーラ・オルビスグループでは、お客さまの個人情報をお預かりすることが多く、情報資産管理については特に厳重に取り組んでいます。

グループ全体で「基本方針」、「プライバシー・ポリシー」、「情報セキュリティ・ポリシー」を定め、全役員、従業員の他、ビジネスパートナーも含め全員が遵守しています。

また、年2回の個人情報の棚卸を通じて、保有個人情報の把握と更新を行っています。9月の「CSRを考える月間」において、e-ラーニングで情報セキュリティについての再確認を行うとともに、情報管理の徹底を図るためにクリアデスク運動を展開し、企業情報の適切な管理の啓発を行っています。

●海外現地法人のコンプライアンス体制を確立しました

ポーラ・オルビスグループでは、海外現地法人の従業員に、現地語に翻訳した「CSRハンドブック」を配布しました。さらに、ポーラ、オルビスの海外現地法人管理責任者及び担当者、海外現地法人社長を対象とした、新日本有限責任監査法人 公認会計士 秋元 宏樹氏による「海外現地法人

コンプライアンス強化に関する研修会」を3月9日に実施し、責任者のコンプライアンス意識の徹底に努めました。そのうえで、各現地法人にてCSRハンドブックの内容を従業員に説明するための経営者向けの研修会を5月25日に開催し、コンプライアンスの重要性の理解度向上に努めました。

●グループCSR賞表彰により従業員へのCSR意識の浸透を図っています

ポーラ・オルビスグループでは、CSR活動に積極的に取り組んでいる部門、グループ、個人の努力に敬意を表し、その活動を支援するとともに、グループ内での周知を目的とした「ポーラ・オルビスグループCSR賞」を設けています。2010年度は、下記の通り社長賞1件、優秀賞2件、他が受賞しました。



社長賞を受賞した
ポーラ B.Aブランドマネージャーの
二宮課長
(掲載ページ:p18)

[2010年度(第4回) ポーラ・オルビスグループCSR賞]

受賞	テーマ	受賞理由	掲載ページ
社長賞	女性誌コスメランキング14冠達成、 『日経ウーマン』ウーマン・オブ・ザ・ イヤヤー2011 ヒットメーカー部門受賞 (ポーラ)	グループ及び部門を横断して、B.Aシリーズのライン化を成功させ、ブランドの価値、認知を向上させた。女性誌コスメランキングで14冠を達成、ブランドマネージャーの『日経ウーマン』ウーマン・オブ・ザ・イヤヤー2011 受賞により、女性が活躍している企業、女性を応援する企業として認知を高めた。	p18
優秀賞	日経ビジネス アフターサービス 満足度ランキング2年連続1位 (オルビス)	日経ビジネス アフターサービス満足度ランキング(ネット通販)で2年連続1位を獲得し、企業ブランド価値向上に寄与した。	p15
	APEX-i スキンチェック1件につき、 10円を募金し、ティール&ホワイト リボン活動に参加(ポーラ)	ティール&ホワイトリボン活動への参加が、100ヵ所以上の営業所に広がり、エリアや本社の支援を得て、子宮頸がんの検診・治療に対する正しい知識の普及・啓発に寄与した。	p29